

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500752		
法人名	社会福祉法人穩寿会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	千葉県緑区高田町1084-2		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『食事』『洗濯』『掃除』といった日常を大切に、自宅の延長線である生活ができるように配慮しています。生活の中で出来る事は自身でやって頂き、つまづく所は、『共に行う』を忘れることなく支援しています。家庭菜園があり、植え付け～収穫までと一緒に、食事に取り入れ、『食』を大切にしています。また、行事にも力を入れています。季節を感じて頂く事も勿論ですが、生活していく上での楽しみにしてもらっています。  
 コロナ禍の影響で、感染症対策を重視し、出来る事が激減しています。アクリル板を設置した事で、以前のように、皆で行う、共に行うは難しくなっていますが、新しい生活様式の中で、健康的に生活が送れるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの理念の意味することを職員と共通理解を図り、利用者には自分が必要とされ生きがいを感じてもらえるよう支援に努めている。今年度はコロナ禍での生活であるが、工夫をしながら利用者を楽しみを提供している。外出はままならないが、ホーム前での花見や、敷地内の畑での作業、テイクアウトのハンバーガーを店員に扮した職員が提供したり、年末には段ボールで神社を造り、玄関前で参拝できるようにした。また、利用者の尊厳を大切にされた排泄の自立を支援しており、日中のおむつゼロに取り組み成果を上げている。研修体制も整え、年間計画のもとホーム内研修を実施するなど、職員の資質の向上を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに、グループホームの理念である「個々の役割を生きがいに」を掲げている。又、理念に繋がるよう、ユニットごとの目標を年度毎につくり掲示し実践目標としている。	管理者と職員は理念を共有し、利用者には自分が必要とされ生きがいを感じてもらえるよう支援に努めている。事業所の理念を踏まえ各ユニットでは年度の目標を掲げ実践に取り組み、年度末には取り組みを振り返り次年度につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事は、コロナ禍の下、中止を余儀なくされ交流の機会を持つことが出来なかった。	町内会に加入しているが、運動会や祭りなどの地域の行事は中止となり、交流の機会は制限されている。それでも、ホーム前を散歩する人に挨拶したり、散歩している保育園児に室内から手を振るなど、感染対策をしながら、できることをやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所を訪れるボランティアを通して発信していたが、いずれも、活動は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も書面での開催となっており、この状態が長引いた場合の対策を講じているところである。	運営推進会議は自治会役員や民生委員、地域包括支援センター、家族代表などの参加で3か月に1回開催していた。今年度は感染防止のため運営推進会議を書面で開催している。議題に沿った資料をメンバーに送付して意見や感想をもらい、次の書面会議で質問や意見に回答している。	会議において議題を工夫することや、会議録を全家族に送付することもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会の世話人を担い、市の担当者との情報交換や相談できる関係作りに取り組んでいる。	グループホーム連絡会の活動などから、市の担当者とは相談できる関係ができている。現在は連絡会も中止となっているが、ホームの取り組みを報告したり制度のことなど聞いている。地域包括センターとも連携が取れており、独居の人が退院後入所につながった事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針の作成及び委員会の設置と事業所内での勉強会を通し、全職員への周知、徹底を行っている。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、規定を整備するとともに委員会を設置し、3か月に1回事例をもとに話し合っている。職員研修も年2回実施し権利擁護への意識付けを図っている。利用者へのことば遣いにも注意し、玄関も日中は施錠せず行動を制限はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学び、全職員で虐待防止に努めている。発見した時の報告義務を怠ることがないように周知している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるときはすぐに対応できる、関係機関との連携をとっている。又、成年後見制度の利用がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定毎に契約書を取り交わし承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気付いたことがあれば家族に連絡し、情報の共有に努めている。又、家族からの要望があれば、その都度申し送りをし、サービスの質の向上に努めている。	面会時や電話で利用者の状況を伝えた時などに意見を聞いている。現在は面会を制限しており、オンライン面会時に聞いている。家族の意見から、ホームの便りに利用者の写真をふんだんに使うようにした。利用者の要望等は日々のケアの中で聞いておりサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の前にリーダー会議を行い、ユニット内での意見や、職員や利用者からの要望等を聞く機会を設け、意見の反映に努めている。	リーダー職員はユニット職員の意見等を聞き取り、リーダー会議に臨んでいる。ユニット会議では具体的なサービスの改善策を検討している。また、管理者は職員との個別面談も年2回実施しており、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップを図れるように、常勤・非常勤を問わず研修や勉強会の機会を設けている。又、資格取得のための援助やソフトの配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修計画を作成している。又、OJTシートを活用し、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の各種委員会や行事への積極的参加及び協力体制を作り、活動を通じてサービスの質を向上させるよう努めているが、今年度においては自粛せざるを得なかった。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居時に特に気を付けている。経過した後も言葉に出来ない所を汲み取るよう気を付け、いつでも話し易い環境、関係性ができるように、コミュニケーションを多くとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況も理解したうえで、要望等に耳を傾けケアプランの一表に記載している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護用品、福祉用具の相談、オムツ給付の助言等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り～洗う工程までを共に行っていたが、感染対策の為、食に関わる事はほぼ出来ず、洗濯物を畳む、干す、ゴミの解体等、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会中止、外出行事も中止になっている為、共に過ごす時間をつくる事はできないが、手紙や、オンラインでの面会を通し共有する時間をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会中止の為、現在は、手紙や、オンライン面会での支援となり、関係性が途切れないようにしている。	現在、面会を制限しているが、以前は近所の人が訪ねて来たり、同級生が面会に訪れることもある。馴染みの美容院に付き添ったり、墓参りや一時帰宅などは家族が支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関われるようなきっかけづくりをし孤立することがないように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真などを保管し大切にしている。 同施設内への移動もあり、契約が終了しても情報の提供をし、相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時に希望や意向等のヒヤリングを行い、3ヶ月毎の評価で、意向に添えているか、見直した方が良いか検討している。	日々の生活の中で職員が利用者の思いや意向を聞くようにしている。ヒヤリングの際には質問の返答が「はい」「いいえ」にならないように心掛けて、意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや、フェイスシートの共有を行っている。また家族にも伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	配茶や食事の時間は、ある程度決まっているが、他は、各々の過ごし方での毎日である。その中での気づきは、ミーティングや、カンファレンスで情報共有を行い、個々の状態変化、過ごし方の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に希望を聞き、プランに反映している。カンファレンスを行い(コロナ禍で、参加人数や時間に制限があり)、不十分なところは個別に聞き取りし、評価、見直しを行っている。	ミーティングや毎月のカンファレンスで、利用者の意向や課題など検討し、今、出来ることを尊重した計画を作成している。また、変化があった場合は、その都度、見直しをおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ルーティンワークになりがちなのがあり、気づき、工夫までいけず、記録の内容もうすくなりがちである。個別記録の内容が介護計画に活かせるよう、何を記録すべきかを明確にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問理美容の利用、パンの移動販売の受け入れを行っていたが、コロナ禍で今までのような体制ではなく緊急性のある時のみに制限している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	薬局などの協力を得て、雑誌の提供を受けたり、近隣の商店で自由に商品を手に取り購入することができる等の支援をしているが、コロナ禍の為、近隣への買い物は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に、認知症専門のかかりつけ医があり、定期受診や相談をしている。コロナ禍対策として、定期的受診に関しては、職員が代理受診をしている。突発的な相談は、写真や動画を活用し診療を受けている。	法人の敷地内に協力医療機関があり、入居者のかかりつけ医になっている。受診時に職員も同席し、利用者の様子や変化など医師が伝え、必要な情報得るようにしている。これまでのかかりつけ医受診の際は家族に同行を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問日に情報を伝え、状態変化等あれば相談し助言をもらっている。24時間オンコール体制になっており、訪看から、主治医に相談し、助言などの指示をもらうこともできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーに情報提供をお願いしたり、ムンテラや退院カンファレンスに同席出来る様に依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての研修への参加。入居時に事業所の方針を説明し共有する。本人や家族の希望を叶えていけるよう、カンファレンス等行い、常に情報共有しチームで取り組んでいけるように努めている。	施設で看取りを希望する場合は、重度化や看取り介護における指針をもとに、施設が対応できることについて説明している。医師と連携して、食事量、体重などの変化を見ながら、家族と相談しながら安心して終末期が送れるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、知識、技術を学んでいたが、コロナ禍で、勉強会の開催を自粛し資料の配布等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、避難訓練を年3回実施している。内1回は運営推進会議のメンバーの参加も募っているが、今年度は、自粛となった。	年3回、避難訓練を実施しており、うち2回は夜間訓練で、フローチャートに沿って実施している。備蓄も1、2週間分を用意している。自然災害、感染症などの緊急事態に備えて法人全体でBCP対策委員会を立ち上げ、活発な活動を継続的にこなしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語に限らず、状況や様子により言葉遣いに気を付けている。「言葉掛け」を考えるような勉強会を行い、職員間でも指摘しあえるようにしていこうと取り組んでいるが、徹底までは至っていない。	普段から言葉かけに気を付け、行動を制限するような言葉を言わないようにしている。また、プライバシーに配慮した対応に努めている。利用者に声をかける時には、「～さん」と呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の内容(麺類)を選んでもらう事はあったが、コロナ禍の為、提供できるものが限られてしまっている。飲料の、温か冷か、また、飲みたいものを伺うなどの声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から声掛けしリビングに来てもらっている事がほぼである。食事がゆっくりの方もおり、その方のペースを大切にしているが、どのように過ごしたいか、希望にそえていないところもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時間を設け、ホットタオルでの顔拭きや髭剃り、お化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作る段階から一緒に行き、好みの物を聞き、提供したり、食後の洗う、拭くも一緒に行っていたが、コロナ禍の為、キッチンに入る時の対策が難しく、嗜好を聞き出来る範囲での提供のみになっている。	これまで職員が利用者と一緒にこなっていた買い物、調理などもコロナ禍でできていない。それでも、テイクアウトのハンバーガーを店員に扮した職員が提供したり、パン焼き機で出来たてのパンを食べてもらうなど、楽しんでもらえる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握し、その方にあった量で提供、減塩等も考えながら作っている。必要に応じ水分量をチェックし把握している。不足している方や食思のない方には、補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在は夕食後だけの実施である。出来る方には自身で磨いてもらい、足りていないところを支援している。口腔状態に変化のある時には、訪問歯科に相談や、診察の依頼をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	綿パンツ使用でトイレに一人でいられる方もいる。継続出来るよう排泄の促しを行う事や、定時誘導するだけでなく、座った時に両足がしっかりと着くような支援、腹圧を自身でかけられるようなサポートを行っている。	個々の排泄パターンを把握し、適宜誘導している。また、自然な排泄を促すために、水分摂取量や食事にも配慮している。日中のおむつゼロに取り組み成果を上げている。失禁した際は、自尊心を傷つけない対応に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、水分チェック表を活用し、イン・アウトを把握し個々に必要とされる予防、ケアに取り組んでいる。訪問看護に相談し医療連携をとる、又、食事や、体を動かす事で、不快なく排泄が行えるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴の為、入浴困難な方もおり、シャワー浴での対応の方がいる。併設小多機の機械浴の利用も検討していたが、コロナ禍の為、他ユニットとの行き来が難しく、保留になっている。	週2回の入浴を支援しており、時間帯や曜日を決めず、利用者の希望に沿って入浴出来るように配慮している。皮膚の弱い人には石鹸を変えたり、入浴剤を使うなど、一人ひとりに合わせ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じ、臥床の促しを行っている。空調や衣類の調整をし気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	直ぐに確認できる場所に個々の文献をファイリングしている。薬のセット、確認、服薬時の読み上げの徹底に努めている。薬の変更等があった際の情報共有、状態観察の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般で、出来る事、得意な事や装飾作りなど行っていたが、コロナ過で、制限の多い生活になってしまい張り合いが見つけられていない。現在は装飾作りや、外注の食事等での気分転換になってしまっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物や、近隣商店の買い物、行きたい所へドライブ等行っていたが、コロナ過の為、敷地外への外出はできず、外出行事での家族参加も出来ていない。	コロナ禍で、思うように外出が出来ない状況であるが、敷地内を散歩したり、畑の作物の収穫など、外気に触れる機会を作っている。コロナ終息後にはまた、買い物、外食などに行きたいと考えている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり、使えるような支援まではできていないが、本人がお金を持つことの大切さの理解はできるように学んでいきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	オンライン面会を通じ話をしたり、家族にお礼のお手紙を書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ過で、アクリル板の設置をしたことで不快感があった方は多かった。混乱しないよう説明していた。生活感や、季節感は装飾飾りで工夫している。	リビングからは中庭が見えて、季節を感じる事が出来る。中庭には花壇もあり、利用者が水まき、草取り、花の苗を植えるなど、日常的に楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士での座席配置作りを行っているが、コロナ過でアクリル板がある為、互いの声が届きにくくなってしまっている。和室の炬燵を利用するなどし、各々のペースで過ごせるような工夫を、もう少し取り組んでいきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談し、使い慣れた物を依頼し、自宅の延長線上にあるような環境を作っている。制作物、趣味の物を部屋に飾り、居心地良い空間作りに努めている。	家族と相談しながら、自宅で使用していた馴染みのある家具や仏壇、写真、思い出の物、生活用品などを持ってきて、それぞれが居心地よく過ごすことができるような居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札や、目印となるおのを設置、トイレも分かるような掲示をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと